

## 小児と高齢者てんかん治療戦略における トランスレーショナル研究へのチャレンジ

オーガナイザー

伊藤康一 (徳島文理大香川薬)

てんかんは、脳神経疾患の中で一般的な疾患の一つで全ての年齢で発症するが、その中で乳幼児・小児および高齢者の年齢層において患者数多い。薬剤師も臨床現場において抗てんかん薬の処方にあたる機会は決して少なくない。

てんかん発症に様々な原因があると考えられ、その症状も多岐にわたることから、診断、治療で難しい面も多い。てんかんは特定の発作タイプと、年齢に依存する因子および予後に特徴があるが、てんかん発症機構や治療抵抗性

てんかんや予防治療に関する研究はほとんど進んでいない。てんかんは適切な薬物治療により約70%が寛解する一方、薬物治療抵抗性も30%以上存在する。現在、新規てんかん治療薬を含めて27種類あるが、全て発作治療薬である。

本シンポジウムでは、てんかん発症機構を考えながら、発症者数が多い小児科領域と高齢者領域でのてんかんに対する予防、治療薬を含めた治療戦略に関して、基礎と臨床両面からの発表、討論を行い、てんかん治療と薬剤師・薬学関係者との関わり合いなども含めて、今後の医療現場での一助にしてもらいたいと思う。(伊藤康一)

## アクティブターゲティング型DDS研究の新展開

—基礎研究から実用化まで

オーガナイザー

河野裕允 (神戸薬大)

辻畑茂朝 (富士フイルム)

新規医薬品の研究開発およびその臨床応用が中止・中断となる主たる理由は、十分な治療効果が得られない、あるいは重篤な副作用が発現してしまうことにある。これらはいずれも医薬候補品の全身の臓器への非特異的な分布に起因すると考えられる。

この課題を解決する方法として、薬物に標的指向素子を結合させることで疾患部位へ薬物を効率的に送達するアクティブターゲティング型drug

delivery system (DDS) の概念が提唱されている。近年、抗体-薬物複合体の相次ぐ承認に伴い、アクティブターゲティング型DDSへの関心が一層高まり、多くの基礎研究が進められている。しかし、それらの技術が実用化に至った例はまだ少ない。

そこで本シンポジウムでは、アクティブターゲティング型DDS研究の第一線で活躍されるアカデミア研究者と企業研究者にそれぞれの立場・視点からご講演いただき、アクティブターゲティング型DDS開発の将来展望について議論したい。

(河野裕允)

## 第18回若手が拓く新しい薬剤学

—局所投与/刺激によるターゲティング型製剤/治療  
開発のブレイクスルー

オーガナイザー

奥田知将 (名城大薬)

門田和紀 (大阪医薬大薬)

近年の医薬品開発において、従来の低分子化合物から蛋白質・核酸・細胞などの生体材料までモダリティが多様化する中で、これらの実用化に向けてドラッグデリバリーシステム(DDS)、とりわけターゲティング機能の付与の重要性が増している。抗体などのターゲティング素子あるいはリポソームなどのナノ粒子を駆使した生理的ターゲティングに関する学術研究が特に脚光を浴びてきた中、物理的ター

ゲティングの範疇にある「局所投与/刺激」は、標的部位での薬物の移行量増大・選択的作用をより確実に達成しうる実用的な方法論と考えられる。一方、局所投与/刺激により期待に沿う治療成績を得るには、製剤・送達デバイス・刺激装置などの包括的な技術革新が必要不可欠である。

本シンポジウムでは、局所投与(肺内・鼻腔内・皮内)および局所刺激(光・超音波)に基づくターゲティング型製剤/治療について講演者より最新の知見をご紹介いただき、DDS製剤のさらなる発展・普及につなげたい。(奥田知将)

## シンポジウムの概要

関連記事 4~10、15~17ページ

## 今、国民は必要な情報を得られているのか

—公的な患者向け医薬品情報提供のあり方とその整備に向けて

オーガナイザー

山本美智子 (熊本大院薬)

佐藤嗣道 (東京理大薬)

医薬品を適正に使用するためには、患者に向けた医薬品のリスク・ベネフィットバランスを考慮した十分なコミュニケーションが必要である。しかし、国民のための公的な医薬品情報基盤は十分整備されているだろうか。

情報の基本である患者向けの添付文書「患者向医薬品ガイド(以下、ガイド)」は、リスク管理計画や重篤な副作用等があるものを対象に作成されている。しかし、その認知度は低く活用は進んでいない。その理由として、ガイドを利用できるサイトが医薬品医

療機器総合機構(PMDA)等に限定されている。作成対象となる薬剤数が限られていることがある。また、資材内容や構成が分かりやすいかユーザーテストを行った結果、十分理解されているとは言えず、改善されるべきところが明らかになった。

「患者と医療者が根拠に基づく情報を共有して治療方針を決定するシェアード・ディシジョン・メイキング」や患者が納得できる医療を推し進める上でも情報提供基盤は有用である。今回、行政、製薬企業、アカデミア、患者の立場から、患者向け医薬品情報のあり方ならびにガイドが普及するための方策と展望について議論を深めたい。

(山本美智子)

## 有機合成化学の若い力:

大志をいただき未開の地を切り拓く

「Young chemists, be ambitious!」

オーガナイザー

坂井健男 (名城大薬)

薬師寺文華 (北大院薬)

清水洋平 (北大院理)

有機合成化学は研究者の発想を具現化して革新分子を作り出すことができる学問であり、生命現象の理解や新薬の創出の基盤となる重要な研究分野である。それゆえ、これまでも薬学において最も盛んに研究が行われてきた領域の一つである。しかし、複雑で巨大な分子の合成、理解や制御が難しい反応の創出、有機合成化学を基盤とした生体内合成への展開、カーボンニュー

トラルに向けた環境に優しいエネルギー源の利用、有機溶媒の大量消費に依存する現状からの脱却など、多くの切り拓かねばならない課題が残されている。

本シンポジウムでは、幅広い背景のもと独自の発想で研究を展開し、世界的にも高い評価を得ている新進気鋭の5人の若手研究者からご講演をいただく。優れた最新の成果と研究哲学を共有していただくことで、研究者同士の“つながり”を深めると共に“つきぬけた”研究を生み出す契機とし、有機合成化学が社会に対して一層の貢献ができる原動力としたい。(坂井健男)

地球の健康とすべての人々の健康で豊かな生活に貢献したい。それが私たちスズケンの壮大なテーマです。

スズケンの事業領域は、健康創造。医薬品流通業界のリーディングカンパニーとして医薬品・医療機器の供給をはじめ健康に関するあらゆる分野でお役に立てるプライム・ベンダーをめざしています。

**SUZUKEN**  
https://www.suzuken.co.jp



Design Your Smile  
健康創造のスズケングループ